

自然史博物館の収蔵庫と標本の利用 1

—アメリカ合衆国国立自然史博物館—

自然史博物館は、展示などの社会教育的機能のほかに研究機関としての役割が重要だが、このことは一般にはなかなか理解されていない。ここではスミソニアン研究機構国立自然史博物館の標本収蔵施設と外来研究者による標本の研究利用の場を紹介する。 <岩手県立博物館 大石雅之>



1. 国立自然史博物館の外観(ワシントンD.C.)、スミソニアン研究機構国立自然史博物館の入口(モール側)。

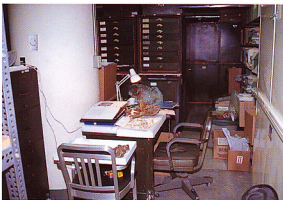


2. パージェス頁岩動物群の展示、スミソニアン研究機構第4代総長C.D.ウォルコットがカンブリア紀のパージェス頁岩動物群を発見したことは、あまりにも有名、地質学上重要な標本のわりには、展示としては地味である。そのため、ジオラマ(右)が再現されている。



3. 海生ほ乳類プログラム収蔵庫の標本収納ケース。西翼地階の収蔵庫。このケースに収まる標本なら、大きさにかかわらず分類順に収納できる。あらゆる部門でこの種の標本収納ケースが採用されている。標本はメリーランド州スーランドの大規模な収蔵施設、ミュージアム・サポート・センターに移されつつある(Courtesy of Marine Mammal Program, Smithsonian Institution)。

4. 古生物研究部収蔵庫。東翼1階の収蔵庫。その中の“ケージ(檻)”とよばれるエリアには、レミングトン・ケログ(1892-1969)が研究した多数の海生ほ乳類化石が収蔵されている。大型の化石標本は、このようなブラスター・ジャケットに包まれて安全に保管される(Courtesy of Department of Paleobiology, Smithsonian Institution)。



5. 収蔵庫で標本の比較研究を行う。収蔵庫に用意された外来研究者のための研究用スペース。大型化石の研究は、昔も今も実物標本の比較が重要なポイントとなる。長期的訪問研究者のためには、小部屋も用意されている(Courtesy of Department of Paleobiology, Smithsonian Institution)。